

グローバルロジック社のケイパビリティ



熊崎裕之 Hiroyuki Kumazaki

株式会社 日立製作所 理事
日立グローバルデジタルホールディングス社
Deputy CEO 兼 CSO
日立ヴァンタラ社CSO

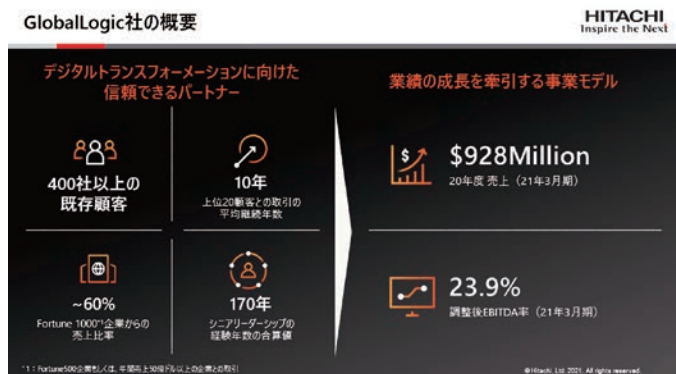
1988年4月 株式会社 日立製作所 入社。2020年4月にサービス&プラットフォームビジネスユニットのChief Lumada Business Officerに就任、Lumada事業の拡大に向け、Lumada アライアンスプログラムの開始やLumada Innovation Hub Tokyo開設など協創のメソッドの準備を指揮してきた。2021年4月からは、日立グローバルデジタルホールディングス社 Deputy CEO 兼 CSOおよび日立ヴァンタラ社 CSOとして、Lumada事業のさらなるグローバル拡大を牽引する。

2021年7月、M&Aによつて日立の一員となった米国のグローバルロジック社。デジタルエンジニアリングサービスのリーディングカンパニーであり、お客さまとの協創によつてDX（デジタルトランスフォーメーション）を加速する日立のLumadaといかにケイパビリティを融合し、どのような価値をもたらすのか。日本におけるグローバルロジック社のシナジーとは。2021年9月28日に行われた報道機関向け説明会を取材した。

グローバルロジック社のアウトライン

日立が買収を発表したとき、グローバルロジック社が何をしている企業なのかすぐに答えられた人は少ないだろう。日本ではほとんど無名の企業を日立が95億米ドル（約1兆300億円）で買収したことは、国内外にさまざまなインパ

クトをもたらした。それだけに買収後日本で最初の記者発表会となった9月28日には、オンラインにも関わらず多くのメディアにご参加いただいた。詳しくはHitachi Social Innovation Forum 2021 JAPANにおけるハイライトセッションで、グローバルロジック社のプレジデント&CEO シャシヤンク・サマントが講演を行っているので、ここではその概要をご紹介します。



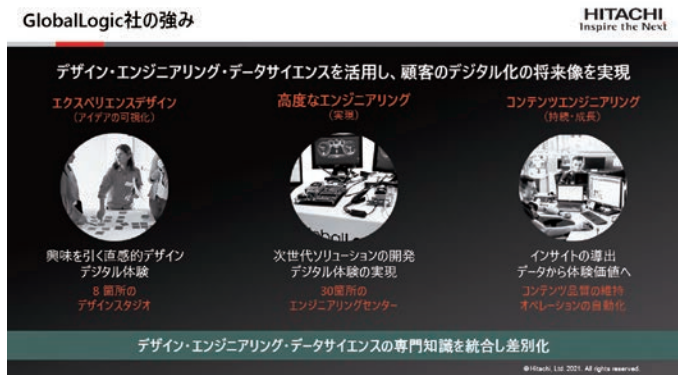
まず、アウトラインを数字で見てみる。グローバルロジック社は2000年創業のデジタルエンジニアリングの会社で約23000人の従業員が世界14か国で働いている。この成長のスピード感は、次々にお客さまを乗り換えているイメージを持ってしまいがちだが、現在400社以上の顧客を持ち、10年以上の取引継続を実現している。これはお客さまとの長期的信頼関係がベースにあることを示している。売り上げは9億2800万米ドル（約1030億円）、調整後EBITDA率は約24%を達成している（21年3月期）。

グローバルロジック社の強み

グローバルロジック社は、DXをスピーディーに実現するための3つの重要な能力を持っている。まず1つ目は、お客さまのビジネスの将来像を可視化するためのエクスペリエンスデザイン。2つ目は、生み出されたアイデアやデザインを、Cloudのすべてのレイヤーで最新の技術を駆使し、実現するための高

度なエンジニアリング。3つ目は、システム導入後のデータ収集と分析を行うコンテンツエンジニアリング。これらによりお客さまの資産であるデータを意味のあるインサイトに変換し、ビジネスを継続的に改善していく。

この3つの強みを発揮することで、スピーディーなDXの実現と、そのブラッシュアップを一貫して行うことができる。



プレゼンターの日立グローバルデジタルホールディングス社 Deputy

ライトの予約の利便性が向上した。

D X事例：『McDonald's』



2つ目の事例は、グローバルブランド、『McDonald's』だ。『McDonald's』はハンバーガーを食べるといっのは私たちの普段の生活の中に溶け込んでいて気づきにくいが世界中の『McDonald's』でも温かい状態で商品を受け取れるということも、オペレーションのDXの結果だ。しかしグローバルロジック社は、さらに世界中の

CEO兼CSO兼日立ヴァンタラ社CSO熊崎裕之は、「グローバルロジック社のこうした考え方は、日立Lumadaを通してお客さまとの協創を進めてきたものと合致しています。したがって、これらの特長や能力が、デジタルプラットフォームのLumadaをさらに強化し、Lumadaの新しいソリューションを生み出すことにつながっていきます」と語った。

グローバルロジック社のアプローチ

グローバルロジック社のアプローチの特長は、お客さまごとのデジタルジャーニーをEnd to Endで支援するところにある。デザイン思考でユーザーエクスペリエンスを形にするデザイナー。デジタル戦略とロードマップを作成するアドバイザー。豊富な専門知識と開発ツールを活用し、短期間でデジタルプロダクトを開発・実装していくエンジニア。収集されたデータを分析し、機械学習モデルを使ったインサイトの獲得をするコンテンツエンジニア。

『McDonald's』の顧客の行動を観察し、『McDonald's』のカスタマージャーニーを再定義した。それに基づき、モバイルアプリや

ホームページ、デジタルメニューボードといった顧客接点のチャネルの役割を明確化してプロトタイプを作り、世界各国でリサーチを行い、ユーザー視点での顧客体験をデザインした。これにより、『McDonald's』はグローバルに統一されたサービスが提供できるようになった。

このようにグローバルロジック社は、スタートアップから世界の人が利用しているグローバルブランドまで、さまざまな業種や業務においてもDXを実現している。

グローバルロジック社とLumadaの融合が日本のDXを加速する

それでは、今後日本でこのグローバルロジック社の技術やノウハウをどう活用していくことになるのか。その役割を担うのが、2021年4月15日に開設した『Lumada Innovation Hub Tokyo』だ。ここが、グローバル



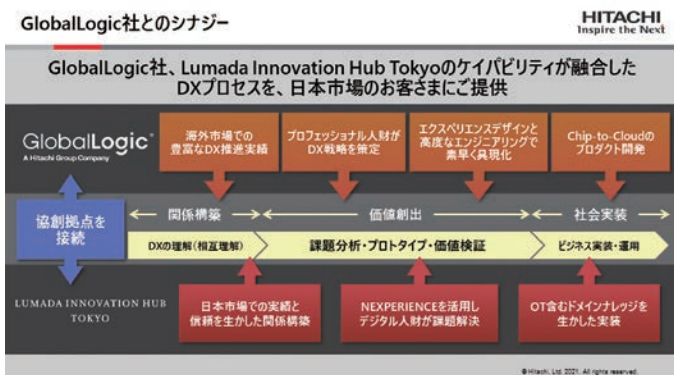
こうした専門家がリアルあるいはバーチャルで「ラボ」としてチームを組み、取り組むことにより、End to Endのカスタマージャーニーを支援する。これがグローバルロジック社ならではのアプローチとなる。

D X事例：『Steller』

具体的に取り組んだDX事例として紹介されたのが、スタートアップの『Steller』という航空会社だ。従来の面倒だったプライベートフライト

ロジック社のケイパビリティとLumadaの融合によるDX推進の拠点の一つとなり、日本のDX加速を支援していく。

DXのプロセスである関係構築・価値創出・社会実装でのグローバルロジック社とLumadaのケイパビリティをプロットしたものがこのスライドだ。



グローバルロジック社には、海外で400社以上の豊富なDXの実績があり、価値創出においてはビジネスデザイナーと呼ばれるプロ

の手配プロセスを変革するために、グローバルロジック社のデザイナーがユーザーの声を聞き、スムーズな航空機の利用を実現するためのオペレーションシステムを構築した。



リアルタイムの見積もりや安全な取引、航空機の運航管理ソフトなども組み込むことで、プライベートフライトの空き状況など適切なタイミングでわかるようになり、スムーズな航空機の利用を実現するオペレーションを構築。その結果、ユーザーはプライベートフ

ファッション人財がDX戦略を策定する。それをエンジニアが即座に実装をイメージしたプロトタイプにして価値検証のスピード化を図る。実装においては、Cloudのあらゆる階層でのエンジニアリング能力がある。

一方の日立の場合、関係構築では日立がこれまで日本市場で築いてきたお客さまとの信頼関係があり、価値創出では協創方法論であるNEXPERIENCEを活用してデジタル人財が課題解決に当たる。社会実装においては、日立ならではのOT (Operational Technology)を含むドメインナレッジを生かした実装が可能となる。

今後、グローバルロジック社とLumadaのケイパビリティの融合を図りながら、Lumada Innovation Hub Tokyoを通じて日本のお客さまもグローバルロジック社の能力を活用することができ、海外のお客さまは日立の能力を活用することができるような場をめざす。

熊崎は「グローバルロジック社と連携したサービスは、2022年度に提供していく予定」だと語った。

日本のDXを加速する『グローバルロジック社』のシナジー ――【後篇】 グローバルロジック社とLumadaの融合

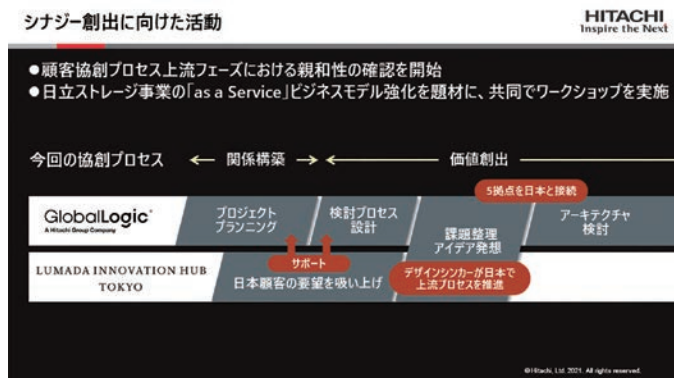


加治慶光 Yoshimitsu Kaji
Lumada Innovation Hub
Senior Principal

Lumada Innovation Hub Senior Principal。シナモンAI 取締役会長、鎌倉市スマートシティ推進参与。
青山学院大学経済学部を卒業後、富士銀行、広告会社を経てケロッグ経営大学院MBAを修了。日本コカ・コーラ、タイム・ワナー、ソニー・ピクチャーズ、日産自動車、オリンピック・パラリンピック招致委員会などを経て首相官邸国際広報室へ。その後アクセンチュアにてブランディング、イノベーション、働き方改革、SDGs、地方拡張などを担当後、現職。2016年Slush Asia Co-CMOも務め日本のスタートアップムーブメントを盛り上げた。

日本のお客さまにサービス提供できるように、早急に準備を進めていくということだ。

動き出したパイロットプロジェクト



すでに、グローバルロジック社とLumadaとの融合に向けた具体的なパイロットプロジェクトが動きはじめている。それは日立のストレージ事業の「as a Service」ビジネスモデル強化を題材にした、顧客協創プロセスの上流フェーズにおける親和性の確認だ。少し詳しく説明する。Lumada Innovation

これからのイノベーション創出のあり方

記者発表の冒頭で、加治慶光はイノベーション創出のあり方を、「業界・空間・時間を超え、知恵やアイデアをつなぐ」と再定義したと述べた。それは、デジタル庁の新設に見られるように関係する組織や企業が業界を超えて連携し、デジタルで完結することが求められる、コロナ禍での在宅勤務などビジネスにおいても時間・空間を超えたコラボレーションが当たり前になってきていること。そして私たちが直面する社会課題は、1社では解決することが困難になっている。今だからこそ、デジタルの力でポータルに知恵やアイデアをつなぐことの重要性を意味している。

Lumada Innovation Hub Tokyoは、イノベーション創出のためのフラッグシップ拠点として、2021年4月15日に開設した。ここではお客さま、パートナー、日立がバーチャル・リアルを問わずつながること

で、DXに取り組み、社会価値・環境価値・経済価値の具体化をめざす。2021年4月15日の開設以来、Lumada Innovation Hub Tokyoではオンライン説明会やワークショップEuro Tokyoのデザインシンカーが日本側の要望を吸い上げ、DXの経験豊富なグローバルロジック社側がプロジェクトをプランニング。現在はデザイナーとアーキテクトで構成されるアドバイザリー・チームがアーキテクチャーの具体的な検討フェーズに入っている。



このスライドが、4日間行われたワークショップの様子だ。グローバルロジック社の5拠点(米国・インド・ウクライナ・イギリス・ポーランド)とLumada Innovation Hub Tokyoを接続し、デザイナー、アーキテクト、



などが行われ、すでに2600名を超える人が参加した。ここで行われたワークショップでは、デジタルを活用して業務改革を進めたいお客さまとリモートで接続しアイデアを創出したり、お客さまとデータサイエンティスト/デザインシンカーが議論しながら、その場でプロトタイプを開発したりするなど、組織・時間・空間を超えた協創がはじまっている。

めざすのはより洗練されたDX

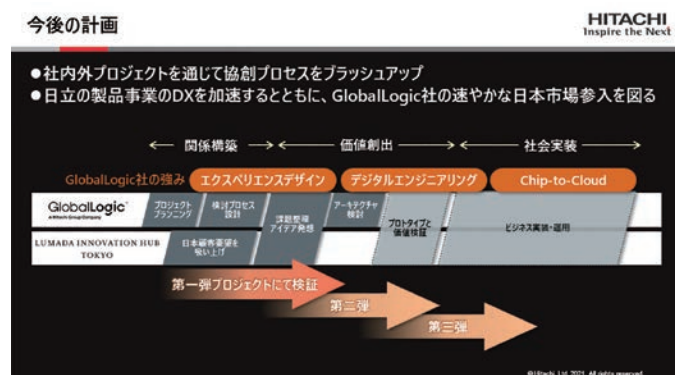
DXプロセス専門家、エンジニアなど50名ほどが参加した。

ワークショップの成果として、グローバルロジック社の拠点ごとにそれぞれのケイパビリティやデザイン手法、パーソナリティを備えており、そこに国内事情に詳しいLumada Innovation Hub Tokyoのスペシャリストが加わることで、お客さまのニーズに沿った最適なプロセスを設計できることがわかり、グローバルロジック社とLumada Innovation Hub Tokyoの高い親和性が確認できたという。

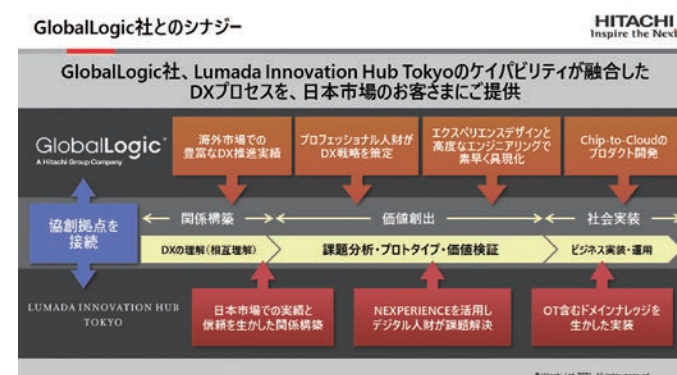
サービス提供へ、協創のスピードアップを図る

今回のワークショップでは、協創プロセスの上流部分である関係構築から価値創出の前半までを両社で確認した。今後も引き続き、社内外の複数プロジェクトを通じて協創プロセスのブラッシュアップを進め、国内サービス開始に向けての人財交流や育成など必要な準備を進める。

このワークショップを経たグローバルロジック社と日立の融合について、加治は最後にこうまとめた。「このワークショップの一連のプロセス



で日立が一番驚いたことは、グローバルロジック社のスピードです。ミッションクリティカルな仕事をしている日立にとって、ワークショップを通じて感じたスピード感はすでにいい意味での影響をもたらしました。アジャイル型の議論に習熟したグローバルロジック社に学びながら、われわれもスピードを上げて、少しでもお客さまのお役に立てるようなチャレンジをどんどん繰り返していきたい」2022年度のサービス提供をめざし、グローバルロジック社と日立の協創はスピードを上げている。



グローバルロジック社とLumadaとの融合に関し加治は、こう語った。「グローバルロジック社の特長であるエクスペリエンスデザイン、エンジニアリング、Chip to Cloudの開発力と、日立の国内市場での経験、Lumada Innovation Hub Tokyoがもともと備えていたエクスペリエンスデザインの能力、日立独自のOT (Operational Technology) を組み合わせることで、より洗練されたDXプロセスをお届けできるようになると考えている」。

今後は協創プロセスの融合を進め、